

② 株式会社 金沢環境サービス公社

温室効果ガス排出状況(取り組み年度 平成12年度と平成22年度)

	平成12年度	平成22年度	削減量(t)	削減率(%)
二酸化炭素排出量	637	483	-154	24

(内訳)

燃料等区分	基準年度	取り組み年度	削減量	増加及び削減率(%)
電気(kWh)	222,000	223,087	1,087	0.49
ガソリン(L)	29,000	39,264	10,264	35.39
軽油(L)	165,000	109,563	-55,437	-33.60
灯油(L)	9,900	798	-9,102	-91.94
都市ガス(m3)		1,727	1,727	
液化石油ガス(m3)	3,500	1,729	-1,771	-50.60

1. 当社の平成12年度と平成22年度の取組の結果を比較します。

- a. 二酸化炭素排出量は637トンから483トンに削減されています。
- b. 軽油と灯油の削減幅が大きくなっています。
- c. 平成12年度にISO14001を取得致しました。

2. 削減の要因について

- a. ある意味で、参考になる画期的な取組みはありません。
- b. そうした経緯の中で特に要因として参考になりそうな項目を記述列挙いたします。
- c. 取組みとしては、負荷の現状を把握→重点的に取り組む項目の特定→その項目を削減するための取組を策定→目標を中期短期で設定→結果を集計評価→代表者に報告して内容を検討して見直すというPDCAの地道な繰り返しを実施しました。
- d. リスク管理の面で自社内にあったガソリンスタンドを廃止しました。以後給油は外部のスタンドで実施しました。その結果個々の車の燃料使用量の把握が容易になり、走行距離との比率で燃費管理が可能となりました。

e. 一般廃棄物の対策としては

イ.以前、社員食堂から出される生ごみをたい肥化し、肥料分析を実施後社員に配布しました。安全な肥料として好評でした。その後食堂は廃止しました。結果的には燃料使用量の削減に寄与しました。

ロ.分別の徹底に加え、集積場には「はかり」を設置して分別した廃棄物を計量しました。排出量を把握して各部署ごとに分類し、社員に発表することで以後の取組の参考にしています。

f.風呂場のエネルギーを変更

イ.灯油ボイラーにてお湯を沸かしていたが、電気による風呂用温水器に変更。いつでも使用できることになり社員には好評です。その結果灯油の使用量は大幅に削減されました。

g.軽油の削減について

イ.当社の二酸化炭素排出の主な原因物資である軽油使用量の削減は省エネ運転の徹底、無駄なアイドリングのストップ、業務の効率化、低燃費車の購入、保有台数の見直し、また時代の流れもあり大幅に削減され全体の二酸化炭素削減に寄与されました。

ロ.排出事業者の排出状況や運搬先の処理施設等の状況を把握し、適切な収集・運搬計画を立てています。

3.取組みの効果

a.こうした取組みが評価され金沢商工会議所と石川県より表彰がされました。

イ.第2回金沢エコ大賞 準大賞を受賞

受賞理由

尿尿くみ取り、浄化槽清掃、ゴミ収集、下水道維持管理等市民生活の環境保全に直接関与する公共性の強い業務であることを認識して、「地球温暖化防止実行計画2001」を策定するなど環境への取り組みを強化している。

特に、隣接する農業用水の汚染を避ける目的で自家用給油所を廃止したり、洗車場排水の排水先の下水道への切り替えなどが評価された。

ロ.平成19年度「ふるさと石川環境功労者表彰」環境経営部門受賞

受賞理由

環境に配慮した産業活動を推進し、その成果が顕著であり、他の模範となる者として

b.目標が達成できない時に原因を考え明らかにするようになりました。

c.日々の取組みを積み重ねることにより、年々継続的改善が出来るようになりました。

4.今後の抱負

a.今後もこうした地道な取組みを通して、目標の基準値を定期的に見直し、実情に合った目標を設定し、システムの有効性、目標の妥当性、適切性を高めながら取り組んでいきます。

b.自社の環境負荷の削減の取組に加えて、当社が提供するサービスに関する環境配慮をとおしてお客様の負荷の削減を実現したい。